

石油化学工業協会 JPCA（略称：石化協（せっかきょう））

「石化協ニュースレター」〈第7号〉 2014年1月

◆ 目次

- 1 はじめに
- 2 石化協会長年頭所感（小林喜光（株）三菱ケミカルホールディングス社長）
- 3 「石油化学」に代わる新しいネーミング公募キャンペーンを実施中
- 4 2014年アジア石油化学工業会議（APIC 2014）の開催について
- 5 編集後記

東日本大震災により被災されました皆さまには心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

1 はじめに

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

関係の皆さまにおかれましては、当業界を含め化学工業界全般へ日頃の活動に対するご理解、ご協力、ご支援誠にありがとうございます。新年を迎え、石油化学工業協会よりニュースレター第7号を配信させていただきます。

以下、当協会会長の年頭所感、および当協会の最近の新たなトピックスについて掲載いたしますのでご高覧下さい。

2. 石化協会長年頭所感（小林喜光 ㈱三菱ケミカルホールディングス社長）



2014年の新春を迎え、謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに、年頭にあたりご挨拶申し上げます。

最近の世界経済に目を向けてみますと、中国経済が底を脱したと言われるもののなお不透明ではありますが、米国景気の堅調な回復、欧州特にドイツ、英国の持ち直しの兆し等緩やかではありますが底堅い回復が続くものと思われまます。

また、我が国の経済をみますと、いわゆるアベノミクスの「第三の矢」である成長戦略、民間需要の喚起はこれからが本番であります、持続的な経済成長と財政健全化の両立を目指しながら、当面は4月以降の消費税増税の下振れリスクをいかに回避させるかが重要な課題であり、補正予算の編成やその他政策パッケージによりソフトランディングしていくことが期待されるところであります。

さて、我が国石油化学業界をみますと、石油化学製品需要も一部を除きようやく回復の兆しがみえてきました。特にエチレン設備の稼働率をみると、2011年10月以来90%を下回っておりましたが、エチレンのアジア市況の改善、誘導品の定修明け等の影響もあって、ここに来てその当時の水準に戻りつつあります。今後は、景気が腰折れすることなく需要の安定拡大基調が継続することを期待したいと強く望むところであります。

このような状況下において、当協会としては時代の流れに即応するとともに、将来の持続的発展に向けた業界共通の課題解決のために、本年においては、以下の項目について重点的に取り組んで参りたいと思います。

一点目は、何と言っても保安・安全への取り組みであります。

石油化学産業にとって、「保安・安全の確保」は、最も重要な前提の一つであることは言うまでもなく、当協会としても、事業計画の最重要事項の一つとして掲げ取り組んで参ります。

特に近年重大事故が連続した状況に鑑み、一昨年から各社トップによる意見交換と相互

啓発の場として、当協会として初めての試みである「保安トップ懇談会」をこれまで5回に亘り開催したところであります。更に昨年7月に公表した当協会の「産業保安に関する行動計画」において、「保安トップ懇談会」に続いて「保安トップセミナー」を行うこととしており、その第1回目を昨年11月に各社トップの参加を得て開催したところであり、本年5月までに第2回目を開催するよう準備を進めております。

また、保安・安全の確保についての従来からの取り組みとして開催している保安推進会議、事故事例巡回セミナー等を継続して開催することにより現場レベルのトラブル情報、経験や保安の取り組みに関する共有化、互いの感性の向上等を図り、安全文化の確立のための学習伝承や動機付けを中心とした取り組みを推進して参る所存です。さらに、自然災害による産業事故の発生防止に向けて高圧ガス設備の耐震補強が重要なテーマとなっておりますので、政府の指導及び支援を頂きながら必要な対策を着実に進めていくことが必要と考えております。

二点目は、グローバルな事業環境の変化に対応して国際競争力強化のための基盤整備に向けた取り組みを行うことです。

我が国石油化学産業は近年、事業再編・統合による構造改革を推し進めコスト競争力・技術開発力の強化や高付加価値分野への事業展開を行ってきましたが、東アジア・中東地域における大型新鋭設備の相次ぐ稼働やシェールガス革命による原料コストの構造激変などにより競争環境はますます厳しくなることが予想されます。

そのような中で、我が国石油化学産業が海外の石油化学メジャー企業との競争に打ち勝ち生残りを図るためには、税制改正、規制改革をはじめ、省エネルギー・地球環境問題、通商問題、原料多様化への対応等ビジネス環境を取り巻く重要課題への適切な対応による事業環境の整備を図ることが不可欠であり、これらに関して官民一体となってその解決に向けた努力をすることが求められています。当協会としては関係団体とも連携しつつ、これらの問題への解決に向けて関係方面への働きかけをこれまで以上に推進してまいり所存です。

三点目は、国際的な活動、とりわけ APIC への取り組みです。

アジアは巨大な人口を有し今後も高い成長が見込まれ世界経済をけん引する重要な市場であり、石油化学産業にとっても生産、投資、貿易、販売の拠点として今後とも大きな成長が見込まれる地域であります。そのような地域の石油化学関連企業が相互にコミュニケーションを促進しつつその健全な発展に貢献するための場として APIC はこれまで 35 回にわたり開催されてきています。

今年はバンコクにおいて開催されることとなっており、「Transformation, A Map Redrawn」というまさしく世界の石油化学産業の大きな変革を象徴するタイトルとなっており、活発で有意義な情報交換や討議が期待されます。

当協会としては、APIC がアジアのみならず世界の石油化学産業の発展に貢献できるよう、

会議の内容の一層の充実を図りつつ成功裡に開催されるよう努力してまいり所存です。また、一昨年より実施されたインドの協会との交流をはじめ、韓国、中国との二国間交流にも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

四点目は、広報活動の強化への取り組みであります。

石油化学産業はこれまで主に石油を原料としてきたところでありますが、近年石油以外のシェールガス、石炭、バイオマスなど原料の多様化が図られようとしており、また様々な技術開発の成果により新しい未来を切り開く新しい機能を持った様々な素材を供給する取り組みが進んでいます。

そこで、石油化学産業のイメージアップを図るとともに、石油化学業界の認知度向上、社会への貢献度のアピール、ひいては当業界の人材確保に資するものとなるよう、「石油化学」に代わる新しい化学に相応しいネーミングを募集する取り組みとして「ネーミング公募キャンペーン」を実施しているところです。2月末までの募集期間の後、優秀賞等を決定し4月に発表及び授賞式等を開催する予定です。

さらに、上記キャンペーンのみならず、石油化学工業及びその製品を広く社会に周知し、認知度を高めるための発信力の強化に努めることとしております。

毎年発行している「石油化学工業の現状」の作成・配布はもとより、ホームページの充実等により、学生や一般の方々、政府、マスコミ、教育関係者等に対して、業界の認知度を高めるための周知活動や理解、支援活動に努めて参る所存です。

石油化学業界としては、環境との調和、地域社会との共存共栄を図りつつ、国民生活に不可欠な基礎材料としての石油化学製品の安定供給を図ることが使命であるとの認識に立って、明るく希望に満ちた社会の実現に向けて日々努力を続けて参ります。このような視点に立って当協会としては、上記四点を重点としつつ、会員各社がそれぞれの事業の発展に向けて抱える共通の課題の解決のために、より良いサービスの提供に努めて参る所存であります。

今後とも当協会への一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
最後に、日本経済の着実な回復と更なる発展を願うとともに、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶と致します。

3. 「石油化学」に代わる新しいネーミング公募キャンペーンを実施中

会長の年頭のご挨拶でも触れておりますが、石油化学産業に対する認知度の向上、貢献度のアピール、ひいては人材確保に資するものとなるよう、「石油化学」に代わる新しい

ネーミングを公募するキャンペーンを実施しております。

詳しい内容につきましては石化協ホームページをご高覧下さい。解り易い「動画」等もご用意させていただいております。趣旨等ご理解の上、皆様の積極的な応募をお待ちしております。

URL: <http://www.jpca.or.jp/>



4. 2014 年アジア石油化学工業会議（APIC 2014）の開催について

今年のアジア石油化学工業会議は Petrochemical Industry Club, the Federation of Tai Industries (FTIPC) の主催でタイのバンコクでの開催となります。

この会議はアジアのみならず世界の石油化学産業関係者の有益な情報交換の場となりますので多数の皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時：2014年5月15日（木）～16日（金）

開催都市：タイ国バンコク市

開催場所：Centara Grand Hotel & Bangkok Convention Center

テーマ：”Transformation A map redrawn”

* 詳細は石油化学工業協会ホームページ <http://www.jpca.or.jp> のトップページにあるこちらのAPICのバナーをクリックしてご確認願います。



5. 編集後記

この年末年始は9連休で過ごされた方が多いのではないかと思います。今年のカレンダーを見ますとなんと、今年の年末も同様な巡りあわせであることに気付き、新年早々少し幸せな気分が加わりました。企業業績の改善、株価の上昇、適切な為替水準等環境は整いつつあり「個人の懐」も少し期待が持てそうな一年になりそうです。昨年にも増して明るい年末が来るようさらに緊張感を持って日々過ごしていきたいと思っております。

本ニュースレターにつき、皆様からの忌憚のないご意見、ご要望をお待ちしております。次回をお楽しみに。(M)

ニュースレターに関するご意見・ご要望はこちらまで

アドレス：inquiries_hp@jpca.or.jp

配信中止・登録内容の変更はこちらまで

アドレス：inquiries_hp@jpca.or.jp

石油化学工業協会 総務部

〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-1 住友不動産六甲ビル

TEL. 03-3297-2011

Fax 03-3297-2017

URL:<http://www.jpca.or.jp/>

